

# 草木地区道路整備 今後の対応は

## 新規築造部分は7月完成予定



議員 坂本 正  
( 新 生 会 )

**問** 東日本大震災から6年が経つが、草木地区の道路整備はまだ手付かずである。今後の対応は。

**佐藤町長** 草木地区の道路整備については、新規の築造となる三陸沿岸道路の側道から集落へ接続する130・2メートル部分は3月に工事に着手し、7月完成の予定で進めている。三陸沿岸道路の側道部分については、管理委託手続を早期に進めることで三陸国道事務所と調整している。整備に当たっては導入できる補助メニュー等を探りながら、早期に実施できるように進めていきたいと考えている。

**問** 国道から役場に向か

う道路について、震災後に札幌市のような碁盤の目状に道路整備し、町並みをつくれなかったか。

**町長** 全て町有地で何もない状況からの開発であれば碁盤の目状の整備は可能であるが、役場前

道路や宅地整備については個人所有の宅地を再配置する事業である。極力整然とした町並みになるよう計画したが、碁盤の目状に整備することは難しい状況であるため、理解をお願いしたい。



7月完成予定の草木道路

陸中山田駅裏

かさ上げ、なぜ3メートルか

津波シミュレーションに基づく

**問** 陸中山田駅裏の土地のかさ上げは3メートルと説明を受けているが、なぜその高さなのか。

しており、駅前の盛り土の高さに合わせて駅裏も一体的に整備する計画としている。

**町長** 3メートルの盛り土は、津波シミュレーションの結果により東日本大震災クラスの津波でも浸水しない高さで設定

造成高については西側の細浦柳沢線の高さに合わせて擦り付けることになるため、西側に向かうほど小さくなる。

本設店舗移行、町の対応は

個々の事業者に応じた対応を

**問** 今の仮設店舗への移転は2回目であり、今後は本設に移行するものと思うが、町の対応は。

を受けた後、速やかに建設に着手できるよう、商工会とも連携しながら助成制度に関する説明や相談など、個々の事業者に応じた対応をしていきたいと考えている。

**町長** 本設先での再建をスムーズに進めるため、事業者が土地の引き渡し